

令和6年度 三企企画展

写真：位登古墳
位登古墳出土人骨
位登古墳
轟尾横穴群

木田川人からわかる

会期 2024年8月1日(木)～9月29日(日)



位登古墳



轟尾横穴群



はじめに

発掘調査では住居や墓など（遺構）と土器・石器など人が作ったモノ（遺物）と共に、古人骨と呼ばれるヒトの骨や歯が出土します。これらはその時代を生きた証であり、生活・風俗・社会構造などを復元する手がかりとして、遺構や遺物と共に重要な資料です。資料は考古学的手法を用いてヒトや社会の復元に繋げていきますが、古人骨は生物として人類学（形質）の手法を用いて行動や社会の復元に迫ります。

人の骨の特徴

成人の骨は206個、歯は32本から成り立ちます。骨格には、靱帯や軟骨も含まれます。人の骨はリン酸カルシウムなどとタンパク質と結合したムコ多糖タンパク質からできています。骨には体を支える、臓器を守る、カルシウムを蓄える、骨髓で血液成分を作る役割があります。また、非常に硬い器官でありながら有機質であるため、本来は年月とともに分解され朽ち果ててしまいます。日本の場合、火山が多く土壌は酸性が強いため、古人骨が残ることは限られます。

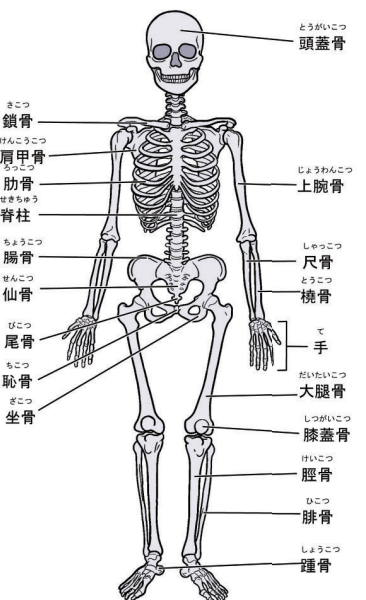
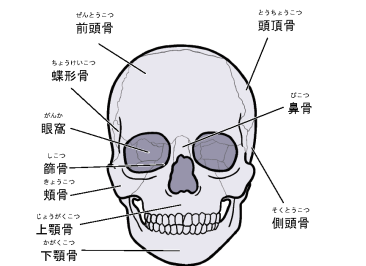
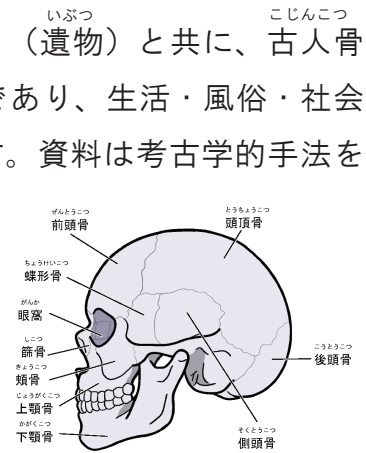
しかしなら、アルカリ性の強い砂丘や貝塚、密閉性が高い石棺墓や甕棺墓、石室や横穴墓などに葬られた環境の場合、骨が残る可能性が高く、これまでの出土事例では、男性の骨が女性より残りやすいです。

形質的特徴とは一古人骨の計測一

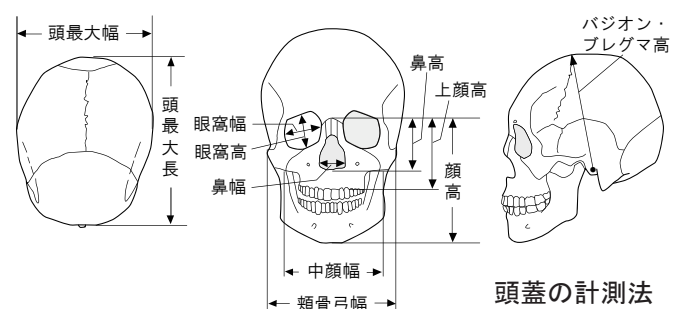
古人骨の状態が良好であれば性別、年齢、顔立ち、身長、体格、病気や怪我など多くの情報が得られます。形質的特徴とは、集団を代表させるに足る個体数を用いて、各項目の計測値の平均値を求め、比較分析を行います。個体数が少ない場合、位置づけが可能か検討し、他集団の平均値と比較する手法が採られます。今回の田川人は、個体数が少ない手法によるもので、さらなる調査・分析を重ねなければなりません。近年はヒトの活動を読み取る分析や、科学的分析の手法を進めて、集団の血縁関係や当時の食生活などまで解明するなど、より当時の社会の復元へ繋げています。

田川市郡の古人骨の確認事例

本市の古人骨は、明治21年に夏吉村の横穴墓から確認されています（小川1888）。当時としては詳細な記録で、副葬品や古人骨の配置が図面と共に報告されています。昭和8年に位登古墳箱式石棺墓から古人骨を確認していましたが（青木1933）、後の整理・分析の結果、成人男性1体と年齢・性別不明の個体と判明します（足達他2021）。昭和40年頃から開発に伴う発



頭蓋骨・人体骨



頭蓋の計測法

掘調査などを合わせると、これまで36体の出土が記録されています。また、田川市郡の文化財調査報告書、市町村史、郷土誌などの記録を合わせると、古墳時代を中心に約110体の出土が記録されています。これは古墳時代中期～後期の墓制である横穴墓が多いことが理由の1つです。

出土状況と古人骨の特徴

① 位登古墳

出土状況 主体部の墓壇は略方形プランで、対角線上に箱式石棺が設置されていました。箱式石棺は北側部分のみ残存し、両側板が小口を挟み、床石からなります。棺内から出土した古人骨は、原位置を保っていませんでした。石棺内部は赤色顔料が塗布され、古人骨に朱とベンガラ（P）、石棺内面はベンガラ（不定形）の使い方の違いが確認されています（志賀2020）。記録によると、鏡1面、^{くだたま}管玉62個、^{たち}大刀片が出土しましたが、現在は出土品の行方は不明です。

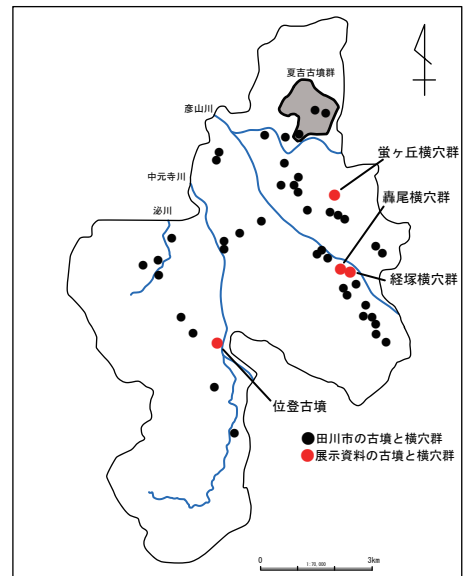
古人骨の特徴 2体のうち1体の人骨の保存状態は良好ではありません。残りが良い1体の^{とうがいこつ}頭蓋骨は、左側の一部を除き遺存し、^{かがくこつ}下顎骨は完存します。性別は男性、年齢は熟年と推定されます。もう1体は、^{だいたいこつ}大腿骨片を確認しました。

② 経塚横穴墓

旧鎮西中学校西側に位置し、西側に^{とどろお}轟尾横穴群が位置します。これまで51基の横穴墓が確認されています。このうち、6基の横穴墓から8体の古人骨を確認しました。出土遺物は土師器・須恵器・鉄製品・装身具などが出土し、古墳時代後期に位置づけられます。

1-1号出土状況 未盗掘の横穴墓と考えられ、古人骨は玄室中央、奥壁、玄門と分かれて出土しました。全体の位置関係と四肢骨の関節状況が乱れていたため、軟部組織が腐朽した段階で^{ついそう}追葬に伴う「片付け」の行為が考えられます。また、玄室中央と奥壁の下肢骨は両方共に大腿骨であるため、2体分と推定されます。なお、玄門と玄室中央と玄門の頭蓋骨を除く大部分の骨が認められます。

古人骨の特徴 玄門部から玄室中央の個体の性別は男性、年齢は熟年以上と推定されます。右大腿骨には、骨折による^{ちゆうこん}治癒痕が認められました。奥壁側の個体は女性の可能性が高



田川市の古墳と横穴群分布図



位登古墳全景（写真上が北）



位登古墳主体部全景



経塚横穴群全景

く年齢は成人と考えられます。

1-6a号出土状況 玄室奥壁に、主軸に対し直行方向に鉄剣一振が出土します。古人骨は玄室内から出土しますが細片化し、いくつかの群にまとめられた状態であったことから、「片付け」の行為が考えられます。

古人骨の特徴 頭蓋骨の一部と歯3本が遺存します。性別は男性、年齢は熟年後半から老年と推定されます。

1-6b号出土状況 規模は長さ1.34m、幅1.64mを測り、小横穴墓と呼ばれる横穴墓に近いです。古人骨は玄室中央に遺存するものの、頭蓋骨と離れて下顎骨と上腕骨片が位置し、関節の状態が想定できません。これは軟部組織腐朽後に動かしたと考えられ、「片付け」もしくは小横穴墓の役割の1つとされる別場所から^{かいそう}改葬行為に伴う「再埋葬」が行われたと推測されます。

古人骨の特徴 性別は女性の可能性が高く、年齢は熟年と推定されます。

2-5号出土状況 玄室中央から骨片1点が出土します。

古人骨の特徴 性別は成人と推定されますが、性別・年齢は不明です。

2-7a号出土状況 奥壁付近に頭蓋骨片と大腿骨片(1号人骨)、中央に頭蓋骨片と大腿骨片(2号人骨)が認められました。配置から「片付け」が考えられます。

古人骨の特徴 1号人骨の性別は男性の可能性が高く、年齢は成年以降と推定されます。2号人骨の性別は女性の可能性が高く、年齢は推定可能な部位が残存していないため不明です。

2-9号出土状況 盗掘を受けていましたが、玄室中央から出土しました。古人骨は下顎骨の残存状況が良く、関節状態などから「片付け」が行われた可能性が考えられます。

古人骨の特徴 遺存状態は比較的良好です。部位の重複がなく、遺存した部位全てが同性と考えられることから、同一個体と推定されます。性別は男性、年齢は熟年と推定されます。



経塚横穴群 1-1号閉塞状況



轟尾横穴群空撮(上)、F-1号(下)

③ 轟尾横穴墓

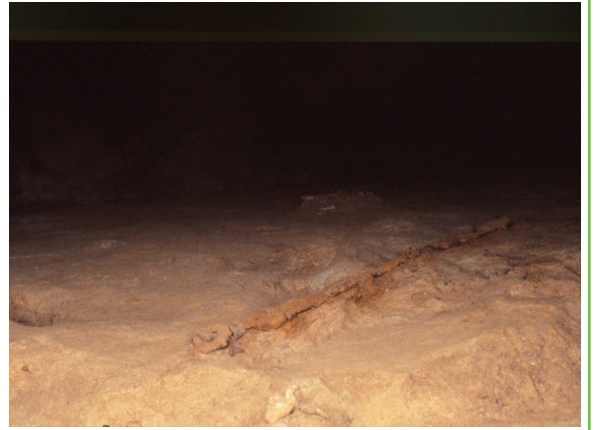
東側に経塚横穴群が位置します。これまで16基の横穴墓を確認しています。そのうち7基より13体の古人骨を確認しました。出土遺物から古墳時代後期に位置づけられます。未盗掘はB-2

とD-2号のみで、他は盗掘を受けています。

A-4号出土状況 断片的ですが、1体分出土しました。

古人骨の特徴 性別は女性、年齢は熟年と推定されています。

B-2号出土状況 石室天井の崩落によって埋没したため、未盗掘の横穴墓です。玄室中央を左右に横切る溝付近と玄室入り口付近に1号人骨、玄室手前を2号人骨として取り上げています。副葬品の須恵器平瓶の中に、鉄斧が入れてある珍しい事例です。



F-1号鉄刀出土状況

古人骨の特徴 1号人骨の性別は不明ですが、年齢は成年と推定されます。2号人骨の性別は女性、残存が良くない大腿骨から年齢は成年と推定されます。

C-1号出土状況 右脛骨^{けいこつ}辺のみ出土し、性別・年齢は判明できません。

D-2号出土状況 左側面の崩落によって図化できていませんが、基部の石材の上に長軸85cm×短軸65cmの平石^{へいそくせき}が閉塞石として用いられていました。古人骨は玄室内右奥にまとまって出土し、2体分確認しました。1号人骨より2号人骨の遺存状態が良いですが、追葬に伴う「片づけ」が行われたと考えられます。

古人骨の特徴 1号人骨の性別は女性、年齢は成年と推定されます。2号人骨の性別は女性、年齢は熟年と推定されます。

E-1号出土状況 玄室中央から玄門にかけて、4体出土しました。

古人骨の特徴 1号人骨の性別は女性、年齢は熟年と推定されます。2号人骨の性別は不明、上顎骨^{じょうごつ}左右の大臼歯^{だいきゅうし}から年齢は小児と推定されます。3号人骨は4体のうち最も遺存が良いです。性別は男性、年齢は熟年と推定されます。4号人骨の性別は不明、下顎骨^{こうもうど}の遺存が良く、咬耗度^{こうもうど}（歯の擦り減り具合）から小児と推定されます。「片付け」または改葬に伴う再埋葬が推測されます。

E-2号出土状況 奥壁近くに散乱しており、2体分確認しました。

古人骨の特徴 1号人骨の性別は不明、歯は乳歯、第1第臼歯^{だいきゅうし}の咬耗度から小児と推定されます。2号人骨の性別は男性、年齢は成年と推定されます。

F-1号出土状況 羨門^{せんもん}に頭蓋骨、玄室の左端に寛骨^{かんこつ}、中央に大腿骨などに分かれて出土しました。また、玄室主軸に対し切先を右奥壁に斜め方向に向けた鉄刀一振が出土しました。追葬に伴う「片付け」や改葬に伴う再埋葬が考えられます。

古人骨の特徴 同一個体と推定されます。性別は男性、年齢は熟年と推定されます。頭蓋骨の後頭隆起に、損傷が認められます。

④ 螢ヶ丘横穴墓

出土状況 詳細な調査記録は不明ですが、昭和29年に浦野古墳群として報告されたものが螢ヶ丘横穴墓と考えられます（塚本1954）。この報告では6基の横穴墓が確認され、そのうち2基から古人骨が出土しています。また、分布調査で15基報告されています（花村1963）。この横穴から出土したと伝わる古人骨が九州大学に保管されており、整理・分析の結果、少なくとも4体分確認しました（田淵他2024）。これまで表採などの資料から、古墳時代後期に位置づけられます。

古人骨の特徴 1号人骨は頭蓋骨のみ遺存し、完存します。性別は男性、年齢は熟年と推定と推定されます。2号人骨の性別は女性の可能性が考えられます。歯牙の咬耗度から、年齢は成年と推定されます。3号人骨の性別、年齢は不明です。4号人骨の遺存状態は良好ではなく、性別は女性、年齢は不明です。

埋葬方法からみる田川人

埋葬方法の変遷は、位登古墳は1つの箱式石棺墓に2体埋葬されています。古人骨は確認できませんでしたが、^{ながたにいけ}長谷池遺跡群では1つの墓壇に別々の箱式石棺墓に、^{めおとづか}夫婦塚石棺墓は箱式石棺墓へ推定で1体が埋葬されています。中期から後期は埋葬方法の変化により、横穴式石室が導入されます。セストノ古墳は石室に5体が埋葬されたと考えられており、追葬と捉えられます。中期中頃から横穴墓も登場し、より多くの人々が埋葬されます。被葬者の性別の差異はみられず、若い年齢も葬送されています。また、60歳を超える事例はみられません。埋葬姿勢は^{しんてんそう}伸展葬（体を伸ばしたまま）が多いですが、追葬に伴う「片付け」や改葬に伴う「再埋葬」の場合、埋葬姿勢の判断は困難になります。

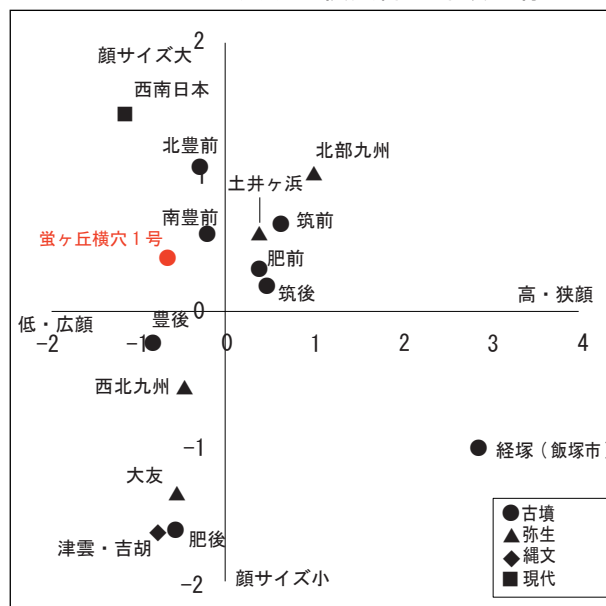
そのなかで、埋葬姿勢を古人骨と刀剣類が出土した事例から復元すると、追葬などで動かされていない場合、刀剣類の軸に対し被葬者は片側に伸展葬された事例が多いです（田村2016）。経塚横穴群1-6a号や轟尾横穴群F-1号から鉄刀が出土していますが、この事例は原位置を保たず、追葬や再埋葬で動かされたと考えられています。しかしなら、追葬や再埋葬を行う際、被葬者の副葬品を再配置する行為は、所有権の表示や被葬者に対する思いが読み取れます。

形質的特徴からみる田川人

頭蓋骨の各項目を計測すると、顔立ちが分かってきました。各地域の弥生・古墳時代の古人骨の主成分分析から、筑前・筑後・北豊前は高顔・高眼窩・^{がんか}狭鼻という形質を示し、豊後・肥前は低眼・低眼窩・広鼻の在来的な形質を示しています。位登古墳人骨は地域的に北豊前と捉えられますが、分析の結果、古墳時代人骨とは異なる傾向の低顔に位置づけられ、在来的な形質に含まれます。経塚横穴群1-6b号は全体的に頭が低めで、やや小作りな顔面、眼窩は低めで、やや鼻が広い女性です。蛸ヶ丘横穴墓1号人骨は長頭であること、顔面部に関しては眼窩や鼻と顔が小さいですが、高顔性示し、北部九州古墳時代の集団に類似することが分かりました。



蛸ヶ丘横穴群1号頭蓋骨



主成分分析結果（田淵他2023）を一部改変

頭蓋骨の各項目を計測すると、顔立ちが分かってきました。各地域の弥生・古墳時代の古人骨の主成分分析から、筑前・筑後・北豊前は高顔・高眼窩・狭鼻という形質を示し、豊後・肥前は低眼・低眼窩・広鼻の在来的な形質を示しています。位登古墳人骨は地域的に北豊前と捉えられますが、分析の結果、古墳時代人骨とは異なる傾向の低顔に位置づけられ、在来的な形質に含まれます。経塚横穴群1-6b号は全体的に頭が低めで、やや小作りな顔面、眼窩は低めで、やや鼻が広い女性です。蛸ヶ丘横穴墓1号人骨は長頭であること、顔面部に関しては眼窩や鼻と顔が小さいですが、高顔性示し、北部九州古墳時代の集団に類似することが分かりました。

身体的特性

①身長 資料が限定されますが推定身長は、男性が164.03cm、女性が151.8cmを測ります。古墳時代の北部九州で比較すると、男性は大きく、女性は変わりません。

②体格 位登古墳出土古人骨の頸椎に、変形性関節症が確認できました。これは、活動負荷や生活様式に起因すると捉えられ、活発的な行動で筋肉質的な体であったと考えられます。

推定身長一覧表

単位:cm

	遺跡名	時 代	N	男 性	N	女 性	
福岡県田川市	轟尾横穴群	古墳時代後期			B－2号 2号	156.09	
					E－1号 1号	144.08	
	蛭ヶ丘横穴群		E－1号 3号	164.03			
				3号	155.09		
福岡県鞍手町	新延野田遺跡群	古墳時代後期	A4－1	161.4			
			A4－2	162.9			
福岡県飯塚市	フシウ山横穴群	古墳時代後期	1号	158.7			
福岡県行橋市	竹並遺跡	古墳時代後期	16	161.9	9	150.5	
大分県中津市	上ノ原横穴群	古墳時代中－後期	7	158.6			
参 考	北部九州	古墳時代	37	160.2	12	151.3	
	北部九州・山口	弥生時代	135	162.3	79	152.6	
	西北九州	弥生時代	16	158.8	8	147.91	
	北部九州	縄文時代	8	159.2			
岡山県笠岡市	津雲貝塚	縄文時代	11	157.3	15	147.7	
愛知県田原市	吉胡貝塚	縄文時代	22	158.9			
山口県下関市	吉母浜遺跡	中世	18	159.7			

古病理学的症状

①骨折 経塚横穴群1-1号右大腿骨は肉眼所見とレントゲン所見から、直達外力（打撃や衝突などの外力により加わった力）による骨折と鑑別された事例です。骨折後、転位（骨がズレたまま）の状態のまま仮骨形成し安定しています。この状態はやや右足が短くなったものの、歩行自体は可能であったようです。また、治癒後老年の年齢まで生存しており、周囲の助けや生活自体が困難なまで大きな支障がなかったことをうかがわせます。

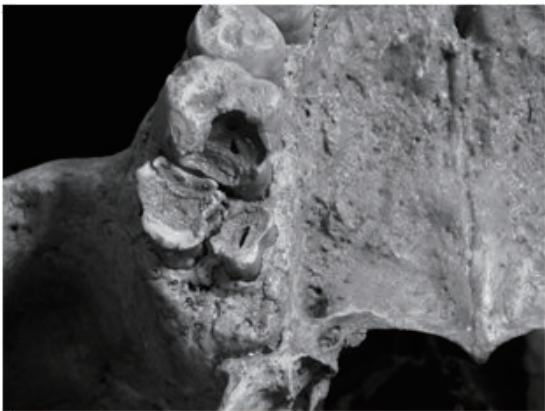
古人骨の骨折は縄文時代からみられますが、転位の状態のまま仮骨形成する事例は、春日市門田遺跡（弥生時代）で報告されています（永井1978）。

②歯の特徴 現代の歯を失う原因の1つでもある歯周病は、古人骨にも確認できます。蛭ヶ丘2号人骨の下顎左第一・第二大臼歯は歯槽が開放しており、生前の歯病によって脱落したと考えられます。

③損傷 轟尾横穴群F-1号頭蓋骨の後頭隆起部分に、数カ所の損傷が認められます。そのうち1カ所は仮骨形成が進んでいますが穴が認められ、刺傷の可能性が高いと報告されています。



経塚横穴群1-1号
レントゲン写真



蛭ヶ丘横穴群2号人骨齶触（むし歯）拡大

おわりに

本市の発掘調査で確認できた古人骨について、古墳時代を中心に田川で暮らした祖先たちの姿をみてきました。被葬者の活動により筋肉が発達していた体格であったり、骨折や病気にかかることは現代でも変わりません。埋葬行為は被葬者に副葬品を備え、追葬に伴う「片付け」や改葬行為に伴う「再埋葬」の再配置は、被葬者に対する強い思いをもつ社会であったと考えられます。

本展開催にあたり、九州大学 舟橋京子氏、九州大学総合研究博物館
米元史織氏のご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

【参考文献】

青木庄一郎 1934「豊前猪位金村位登古墳」『史蹟名勝天然記念物調査報告書第九輯』（史蹟
之部）福岡県 / 足達悠紀他 2021「第Ⅵ章第2節④位登古墳出土人骨の形質人類学的研究」
『田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書（2）』 田川市文化財調査報告書第18集
田川市教育委員会 / 小川敬養 1888「豊前國田川郡夏吉村横穴探求記」『東京人類学雑誌』
3_29/ 金宰賢他 1999「第3章 田川市経塚横穴墓の出土人骨について」『経塚横穴墓群・古
墳群』田川市文化財調査報告書第9集 田川市教育委員会 / 坂田邦洋 1989「Ⅳ. 出土人骨に
ついて」『轟尾横穴墓群』 田川市文化財調査報告書第5集 田川市教育委員会 / 志賀智史
2021「第Ⅴ章第2節 猫迫1号墳及び周辺遺跡から出土した赤色顔料について」『田川市内
埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書（2）』 田川市文化財調査報告書第18集 田川市教
育委員会 / 高椋浩史 2021「九州における古墳時代人骨の四肢骨形態の研
究」『持続する力 上』岩永省三先生退職記念論文集 / 田村 悟 1999「第4
章第7節小型横穴墓について」『水町遺跡群』 直方市文化財調査報告書第
20集 直方市教育委員会・2016「北部九州における横穴墓の埋葬姿勢」『
考古学は科学か 下』 田中良之先生追悼論文集 / 田淵朱莉他 2024「第2節
蛭ヶ丘横穴群出土人骨について」『田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘
調査報告書（3）』 田川市文化財調査報告書第20集 田川市教育委員会 / 塚
本勇二 1954「附録五 裏野古墳群観察記」『田川の實態（3）文化資料』
田川教育研究所 / 土肥直美他 1987「前田山遺跡出土の人骨の調査」『前田
山遺跡』行橋市文化財調査報告書第19集 行橋市教育委員会・1991「Ⅳ.
考察 4. 人骨」『上ノ原横穴墓群Ⅱ』大分県教育委員会 / 永井昌文 1978
「Ⅲ 出土人骨と貝輪」『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告書第6集』福
岡県教育委員会・1988『日本民族・文化の生成2』九州大学医学部解剖学第
二講座所蔵古人骨資料集成 六興出版 / 永井昌文他 1979「横穴墓一覧（出
土人骨）」『竹並遺跡』竹並遺跡調査会 東出版 / 花村利彦 1963「田川地方
の遺跡とその分布の研究」『郷土田川』第21号 田川郷土研究会 / 中橋孝博
2002「第4章第2節 福岡県鞍手町・新延野田遺跡群出土の古墳時代人骨」
『新延野田遺跡群』鞍手町文化財調査報告書第14集 / 2019『日本人の起源
人類誕生から縄文・弥生へ』株式会社講談社 / 橋口達也他 1975『稲築公
園内遺跡』稲築町教育委員会調査報告書第1集 / 舟橋京子 2016「古墳時
代横穴墓に見られる改葬行為に関する試論」『持続する志 上』岩永省三先
生退職記念論文集

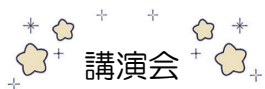
年齢表示一覧表

		男性	女性	不明	計
新生児					
乳児	0～1歳				
幼児	1～6歳				
小児	6～12歳			3	3
若年	12～19歳				
若年～成年	20歳前後				
成年	20～39歳	1	3	1	5
成年～熟年	40歳前後				
熟年	40～59歳	6	4		10
熟年～老年	60歳前後	1			1
老年	60歳以上				
成人	20歳以上	1	1	1	3
不明			4	1	5
計		9	12	6	27

出土古人骨一覧表

遺跡名	番号		男性	女性	不明	年齢
位登古墳			1			熟年
				1		—
経塚横穴墓	1－1号		1			熟年
				1		成人
	1－6a号		1			熟年後半～老年
	1－6b号			1		熟年
	2－5号				1	成人
	2－7a号	1号	1			成年以降
		2号		1		—
	2－9		1			熟年
轟尾横穴墓	A－4号			1		熟年
	B－2号	1号			1	成年以降
		2号		1		成年
	C－1号				1	不明
	D－2号	1号		1		成年
		2号		1		熟年
	E－1号	1号		1		熟年
		2号			1	小児
		3号	1			熟年
		4号			1	小児
	E－2号	1号			1	小児
2号		1			成人	
F－1号		1			熟年	
蛭ヶ丘横穴墓		1号	1			熟年
		2号		1		成年
		3号		1		—
		4号		1		—
計			9	12	6	27

【会 期】 令和6（2024）年8月1日（木）～令和6年9月29日（日）
【編集・発行】 田川市石炭・歴史博物館 〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2734 番地 1
TEL/FAX：0947-44-5745 E-mail：tchm@lg.city.tagawa.fukuoka.jp
【発行年月日】 令和6（2024）年7月26日
【展示資料一覧】 位登古墳：頭蓋骨・レプリカ頭蓋骨・管玉・円筒埴輪 / 経塚横穴群1-1号：大腿骨・レ
プリカ頭蓋骨・須恵器平瓶・須恵器高坏・石製紡錘車、1-6b号：頭蓋骨・土師器高坏
・土師器埴輪・須恵器平瓶、2-9号：下顎骨・須恵器提瓶・須恵器横瓶、/ 轟尾横穴群B-
2号：須恵器平瓶・鉄製斧、F-1号：頭蓋骨 / 蛭ヶ丘横穴群：須恵器長頸壺・須恵器平瓶



「古人骨からわかること」

レプリカ古人骨に触れながら、古代田川人の姿に迫ります。

講師：米元史織氏（九州大学総合研究博物館） 日時：令和6年9月8日（日）13時30分～15時

会場：田川市民会館講座室1（田川市大字伊田2550番地1） 申し込み：不要

